



財団法人ボーイスカウト日本連盟

第10回世界スカウトユースフォーラム派遣

日本代表団報告書

Report of the 10th World Scout Youth Forum, Japan Delegation, Scout Association of Japan

目次

■派遣概要	page 3
-日程、期間、場所、目的	
-派遣員派遣員紹介	
-世界スカウトユースフォーラムとは	
-第10回世界スカウトユースフォーラム概要	
-派遣日程詳細	
■第10回世界ユーススカウトフォーラム報告	page 6
-討議内容報告	
-ワークショップ・分科会報告	
-投票行動について	
-世界スカウト委員会への提言及び日本代表団の対応	
■フォーラム期間中のイベントについて	page 16
-開会式	
-インターナショナルナイト	
-プロジェクトフェア	
-コミュニティーサービスプログラム	
-閉会式	
■インターイベントプログラム報告	page 18
■フォーラム期間中の23WSJ招致活動について	page 19
■世界ユーススカウトフォーラム運営への評価	page 20
-フォーラム運営への評価	
-ホスト国連盟への評価	
■個人評価	page 21
■日本連盟への提言	page 26



派遣概要

■派遣名 第10回世界スカウトユースフォーラム派遣

■期 間 2008年7月6日～2008年7月19日

■場 所 大韓民国全羅北道益山市 (Iksan-si) 圓光大學校(Wonkwang university)
及び濟州特別自治道濟州市 濟州國際會議場

■派遣目的 第10回世界スカウトユースフォーラムは、2008年7月に韓国・全羅北道の益山市で開催される。参加者は、日本のスカウトの代表としてこのユースフォーラムで世界の仲間と討議をすることにより、青年スカウトとして必要な資質の向上を図る。また参加各国スカウトとの親善交歓により国際理解と友情を深める。フォーラム後は7月14日から18日まで濟州島で開催される第38回世界スカウト会議日本代表団の青年代表として参加する。また、当連盟は「第23回世界スカウトジャンボリー」開催地の立候補をしていることから、「第38回世界スカウト会議」において代表団の一員として、招致活動を行う。

■派遣員紹介



代表
陰山 雄平 東京連盟練馬15団

代表
竹之下 友里 東京連盟新宿2団



オブザーバー
平塚 学 日本連盟教育本部委員

オブザーバー
有馬 典孝 兵庫連盟龍野1団



オブザーバー
木下 博貴 京都連盟京都25団

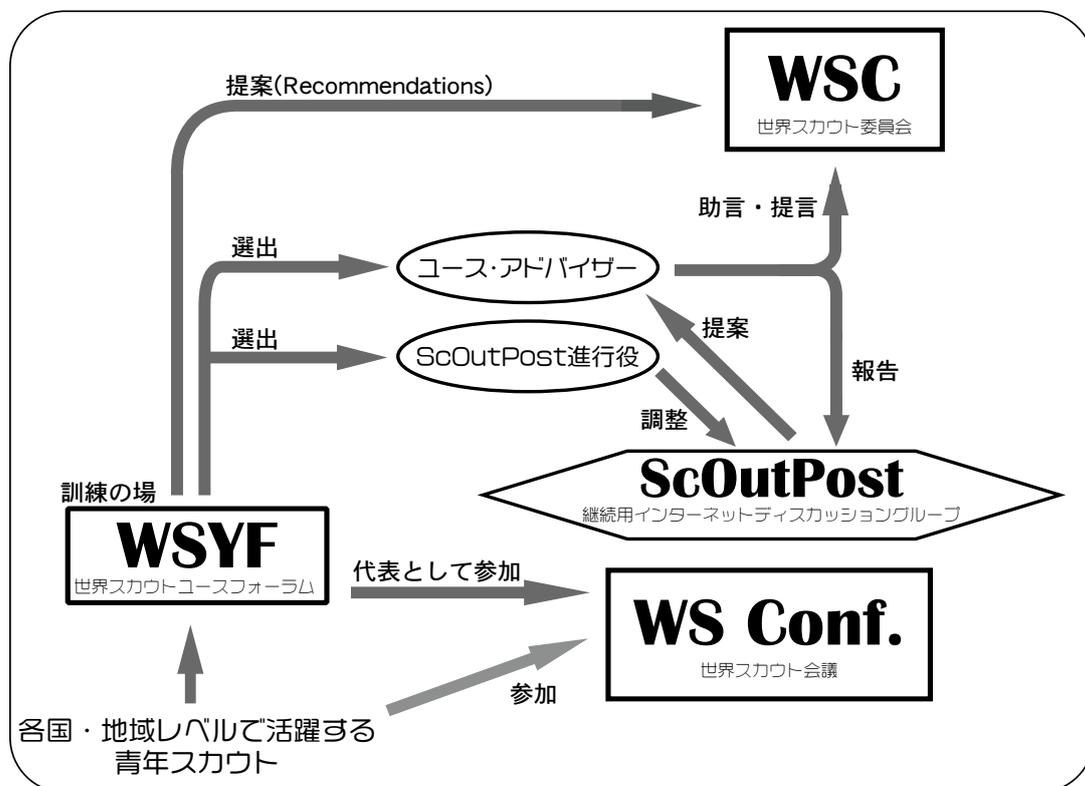
■世界スカウトユースフォーラムとは？

世界スカウトユースフォーラムは、スカウト運動における青年の教育的な経験の場の一つとして、93年から現在の形態で運営されている。世界スカウトユースフォーラムは青年スカウトが興味・関係を持つ様々な問題の討議の場であると同時に、世界スカウト会議で取り上げられる議題についての予習の場でもある。事前に世界スカウト会議の議題について他国のスカウトたちとの意見・情報交換を通じて様々な問題に対する理解を深めると同時に、そのようなプロセスを通じて民主的な意思決定過程に必要な技術や経験を積む場でもある。

また、フォーラムの参加者は世界各国から集まるのであるから、それぞれの生活環境もスカウティングにおける環境も異なり、文化的にも言語的にも異なっている。このような中で意見交換をし、討論をすることは、スカウティングを越えた各個人の成長にも極めて有意義であると言える。

さて、このようにして世界スカウトユースフォーラムで討議された内容は、フォーラムの最後に世界スカウト委員会への提案としてまとめられ提出される。また、今回からは6人の「ユース・アドバイザー」が世界スカウトユースフォーラムから選出され、地域から選出された他の6人のユース・アドバイザーとともに、世界スカウト委員会に参席することによって、青年スカウトの意見が世界のスカウト運動に反映されるようになってきている。世界スカウトユースフォーラムや各地域のユースフォーラム参加者は「ScOutPost」というインターネット場のグループを通じて一定期間継続的に交流することで、選出されたユース・アドバイザーとの意見・情報交換ができるようになっている。

参考まで、世界スカウトユースフォーラムでは英語とフランス語を公用語とし、青年メンバーからなる準備委員会と、主催国のスカウトによって運営されている。



現在の世界スカウトユースフォーラムの役割

■第10回世界スカウトユースフォーラム概要

第10回世界スカウトフォーラムは大韓民国益山市において、2008年7月6日から7月10日まで行われた。今回の世界ユーススカウトフォーラムは95カ国から178名の参加があり、過去最大の物となった。男子スカウト104名、女子スカウト76名の参加があり、129名の各国正代表と49名のオブザーバーとなった。またユーススカウトの他に、世界事務局、世界委員会及び地域委員会等の参加もあった。

ユースフォーラムのプログラムは大きく2つのキーテーマ、「Scouting in the new century」及び「Creating a better world」に基づいて行われた。Scouting in the new century では青年参画やWOSMにおけるガバナンス、スカウティングのビジョンとミッションなどについて話し合われた。ガバナンスに関しては世界スカウト委員会副委員長、テレサ・バーミンガム氏よりWOSM Crisis に関する詳細な説明が参加者に対してなされた。

Creating a better world ではミレニアム開発目標に対してスカウティングは何が出来るか等、主に社会に対してスカウティングが出来る事、すべき事について討議が行われた。討議は基調講演や映像による参加者へのインプットを経てから分科会を通して行われた。

今回のフォーラムでは6名のユースアドバイザーが選挙を通じて選ばれ、世界スカウト委員会に参画すると同時に今回のフォーラム実行委員会として機能する。

期間中には、ソーシャルサービスプログラムやカルチャーナイト等交流プログラムも行われ、参加者間の親睦を深める事ができた。

■派遣日程詳細

- ・7月5日（土）
 - 午後：スカウト会館集合、打ち合わせ
 - 結団式、イベントでの出し物練習
- ・7月6日（日）
 - 午前：スカウト会館出発、成田空港よりソウルへ
 - 午後：フォーラム会場着、チェックイン
展示準備等
- ・7月7日（月）
 - 午前：基本連絡、議事進行・議決方法の採択、ユースアドバイザーによる報告等
 - 午後：地域選出のユースアドバイザーによる報告、ユースアドバイザー候補者による演説、開会式
- ・7月8日（火）
 - 午前：新しい世紀におけるスカウティング
 - 午後：オープンフォーラム、プロジェクトフェア、ユースアドバイザーへの投票
- ・7月9日（水）
 - 午前：Creating a better world
 - ミレニアム開発目標についての説明
 - スカウト オブ ザ ワールドについての説明
 - ワークショップ
 - 午後：コミュニティーサービス（場外活動）
- ・7月10日（木）
 - 午前：提言起草委員による発表
提言の採決と修正
 - 午後：各地域において今回のフォーラムの総括
評価、反省
- ・7月11日（金）
 - 午前：インターイベントへ出発
 - 午後：スンチョン市観光
 - ※13日までインターイベント参加
- ・7月13日（日）
 - 午後：済州島着、世界会議代表団と合流
 - ※19日まで世界会議参加
- ・7月19日
 - 午後：成田空港にて解散式

第10回世界スカウトユースフォーラム報告

■討議内容報告

【Scouting in the new century (新しい世紀におけるスカウティング)】

このセッションは、参加者に対する導入として実行委員会ならびに地域選出のユースアドバイザーにより提供された。まず、世界委員会、会議等の役割に関する説明を受け、議論を行う為の土台を作った。

導入後は青年参画の重要性ならびに世代間対話の重要性を参加者が理解することを目的に設定された。セッション中には、地域による青年参画の事例としてアジア太平洋地域並びにインターアメリカ地域選出のユースアドバイザーより報告が行われ、アジア地域ではYAMGとよばれる制度を活用し、地域委員会や小委員会にユースメンバーが参画し、またユースフォーラムが運営されていることが報告された。インターアメリカ地域からは、ネットワークと呼ばれる、社会奉仕プロジェクトの運営を中心とした、プログラムベースの青年参画の事例が報告された。どちらも、先進的な取り組みとして他の地域でも広げていきたいという評価が参加者からなされた。

その後、小グループに分かれて議論を行い、参加者からは青年参画をより草の根レベルで推進していく必要があることが提起された。青年参画は、スカウト運動の使命である「社会で建設的な役割を果たす青少年を育てる」を達成するために重要な戦略であることが確認された。

また、参加者からは青年参画はユースだけでは実現できず、成人の支援を受けながら成人とユースとの間の世代を超えた学習の機会を提供することが重要であることも提起された。これらは、お互いのコミュニケーションなくしては成立しないということが過去のスカウト運動の経験から学ぶことができる教訓である。

【Creating a better world (より良い世界を作る)】

よりよき世界を作るという目標にスカウティングがどのように取り組めばよいのかを、MDGs(ミレニアム開発目標)とスカウティング、Scout of the World の観点からワークショップ、分科会を通じて議論された。

MDGsについてはMDGsの8つの目標(ゴール1:極度の貧困と飢餓の撲滅 ゴール2:初等教育の完全普及の達成 ゴール3:ジェンダー平等推進と女性の地位向上 ゴール4:乳幼児死亡率の削減 ゴール5:妊産婦の健康の改善 ゴール6:HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止 ゴール7:環境の持続可能性確保 ゴール8:開発のためのグローバルなパートナーシップの推進)に合わせ、6つのグループにわかれ分科会を行った。

スカウト オブ ザ ワールドアワードについては、この賞を導入して実際に活動を行っている国のここ数年の事例が報告された。報告を行ったのはヨーロッパ各国、アメリカ、コスタリカ、オーストラリア、シンガポール、韓国などである。

Scout of the World Awardとは?



この賞は、若者(規定では15歳から26歳まで)の問題解決能力を養うスカウト活動及び社会活動参加を推奨することを目的として設立されたもので、主に平和、環境、開発に関する活動をした若者に授与される。スカウトではない若者もこの活動に参加できるのがこの賞の特徴である。

この賞は若者の社会的活動への参加を推奨しており、地域的、全国的、国際的、全てのレベルにおいての活動に対して贈られる。またNSO同士のパートナーシップの構築にも貢献している。

賞の取得方法は企画書を自国のNSOに出し、許可を得るとともに登録を済ませ、活動実施後に評価反省をすることとなっている。推奨される活動は、視察、計画、活動実施の3ステップから構成されており、その視察と計画を"The Scouts of the World Discovery"、活動実施を"The Scouts of the World Voluntary Service"と呼ぶ。賞をサポートするネットワークとして、"The Scouts of the World Bases"と"The Scouts of the World Network"、"The Scouts of the World Partnership"がある。SoW Basesはスカウトのキャンプ地や実習所などの施設のことで、活動の提供や他の施設との交流、資金造成などが求められる。SoW Network、SoW Partnership は人間関係のネットワークであり、友好関係や協調性を促進すること、より良い世界を造るために貢献すること、若者がこの賞を受賞できるよう援助すること、各ネットワーク同士で助け合うことが目標となっている。

■ワークショップ・分科会報告

【Scouting in the new centuryワークショップ】

7月8日にScouting in the new century のワークショップが行われた。テーマはGovernance(ガバナンス)、Educational method(教育手法)、Strategy(戦略)、Consitution(憲章)、Membership development(加盟員の増加)、Image of Scouting(スカウティングのイメージ)、Challenges for scouting(スカウティングの挑戦) の7つであった。これらは後に行われる世界会議でも討議されるものであり、世界会議の前にユースとしての意見をまとめる為に行われた。

Educational Method (陰山)

このワークショップでは、世界スカウト委員会の基にあるEducational method sub committee(教育手法小委員会 EMC)で議論されている事を中心に話し合った。はじめにEMCで議論されている事の報告や取り組み事例があり、その後参加者の間で議論が行われた。環境教育やパートナーシップ、ジェンダー平等などを、各国の事例を参加者が紹介しながら進み、スカウティングにおける教育手法の重要性について確認した。

Governance (有馬)

ガバナンスに関する前半のワークショップにおいては、主に「WOSMにおける発言力は供出資金量によって決定されるべきではない」といったWOSM危機を念頭においた議論が交わされた。このため、アメリカの立場に理解を示す側とアメリカを徹底的に批判する側にディスカッショングループが二分され、ワークショップを通して明確で強力な提言を行うことが出来ないまま終了時間を迎えることとなってしまった。ガバナンスレビュータスクフォース(GRTF)のデビッド・ブルを迎えてのガバナンスワークショップ後半においては、より一般的なWOSMガバナンスに関する議論が行われた。特にWOSMにおける青年参画に関して多くの意見が出され、「WSCに投票権を持つ青年代表を参加させる」「ユースによるWSCと同様の組織を創設する」など様々な意見が交わされ、世界的なスカウト運動における青年参画が今後における重要な課題として再確認された。



【ミレニアム開発目標に関する分科会】

2000年9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットにて国連ミレニアム宣言を採択された。このミレニアム宣言とは、平和と安全、開発と貧困、環境、人権とグッドガバナンス（良い統治）、アフリカの特別なニーズなどを課題として掲げ、21世紀の国連の役割に関する明確な方向性を提示したものである。そして、この国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたものがミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）である。

この分科会では、スカウティングがこの目標に対してどのように取り組めるのかを考え、すでに取り組んでいる事例や経験を共有した。参加者は各目標に基づいたグループに分かれて議論した。

Archive universal primary education （竹之下）

“Education for All（全ての子供に初等教育を）”の部門に参加した。個人感想にも書いたが、まず初めにアメリカ、ヨーロッパ各国、日本ら先進国が「教育基金の立ち上げ」や「スカウティング活動を通しての教育」についての議論を始めた。しかし、途上国からは現実的な厳しい意見「教育よりも食べ物を」などが挙げられ、最終的に自分の地域のスカウト活動を通して「現地のニーズに合わせた活動」を行おうという結論に至った。

Combat HIV/AIDS, malaria and other disease （平塚）

ミレニアム開発目標でも重要視されているHIV/AIDSや疾病の問題を議論する分科会に出席した。特に、HIV/AIDSの問題はアフリカに深刻であり、実際にアフリカのコミュニティ開発プロジェクトを主導しているスカウト運動の経験をアフリカの参加者が報告をした。参加者との議論の中で、参加者は疾病の根絶には各国スカウト連盟、非政府組織、そして政府機関との調整やパートナーシップが重要であり、以下の活動を提言することで合意した。

【大衆に対するHIV/AIDS啓発活動】

- ・ ビデオの活用
- ・ ニュースレターの発行
- ・ 教材の提供
- ・ 演劇の実施
- ・ HIV/AIDS検査
- ・ 無料のコンサルタント
- ・ 無料のコンドーム、ARVsの配布
- ・ HIV/AIDSの啓発活動に関する特別授業の導入

Ensture environment sustainability （陰山）

この分科会では、各国で環境についてどのような活動が行われているか紹介し合い、どのような活動であるべきかを議論した。地域に根付く活動であるべきだという意見や、ビニール袋を使わない様にするなど生活に根ざしたもの等、様々な意見が出た。またこの後の世界会議で発表される予定の世界スカウト環境プログラムについて世界事務局担当者から説明があった。提言としては環境に関する団体とボランティアのパートナーシップの推進、ビニール袋不使用の推進、スカウト オブ ザ ワールド アワードへの参加を促進するというものが出た。

世界スカウト環境プログラムとは？



世界スカウト環境プログラムとは、第38回世界スカウト会議で正式に発表されたスカウティングにおける環境教育プログラムである。環境はスカウト活動にとって中心的なもので、よい成人を育てる上で基本的な要素でもある。スカウティングは自然世界を体験し、つながりを持つ機会を提供している。ちかいとおきてに基づき、環境教育プログラムを提供するために、枠組みと活動例、達成すべき目標を提示した。枠組みに基づいた達成すべき目標を達成した後、世界スカウト環境バッジが授与される。現状の世界環境バッジに代わるものとして提案されている、初めての環境教育プログラムである。

【オープンフォーラム】

フォーラム期間中、参加者同士の経験を共有し興味に基づく議論を行う為に、オープンフォーラムが行われた。このオープンフォーラムは参加者から議題が提案され、提案者によって各フォーラムが運営された。この際行われたフォーラムはスカウティングへのアクセスの促進(フランス)、各国連盟内での青年参画(ニュージーランド)、スカウト オブ ザ ワールド アワードの実施(イギリス)、優先的な戦略3とミレニアム開発目標3(ブラジル)、若者の間での相互交流(スリナム)、新しい社会環境でのスカウティングの活動(スペイン)、社会におけるスカウトの役割(フィンランド)、スカウティングと慈善活動(スリランカ)の8つであった。

Scouting in action in a new social environment (スペイン) (有馬)

スカウトが政治的な問題に関し立ち位置を取るべきか否か、についてのフォーラムに参加。「平和や環境といった『共通』の問題に関しては断固たる姿勢を貫くべき」という意見と「政治的な問題にはスカウトとしてではなく個人として関わるべき」という対立する意見が出され、白熱した議論が交わされたが、最終的には「WOSMの掲げる方針に反する場合のみスカウトとしての意見を明確にする」という結論に達した。

More interaction between young people (スリナム) (竹之下)

インターネットが無い地域もあるのではと指摘はしたが、結局はインターネット上の「スカウトポスト」、「フェイスブック」、メールなどのサービスを利用したネットワークを構築していこうという意見で一致した。国内のネットワーク強化に関しては自国で自分達がユーススカウトを集めた会合を開催しようということになった。

Youth involvement at a national level (ニュージーランド) (陰山、平塚)

このワークショップでは、各国連盟での青年参画の状況について情報共有をした。日本からは正直な所悪い例しか出すことができず、残念であった。ヨーロッパ諸国では青年参画も進み、あえて青年参画に取り組みなくてもよい状況の連盟もあった。一般的にアジア諸国では青年参画は進んでいないという意見もあるが、韓国連盟におけるローバー委員会やオーストラリアのRover councilの例など、見習うべき例を多く知ることができた。

【参加者の選択によるワークショップ】

期間中、オープンフォーラムと同様に参加者からの提案によるワークショップが開かれた。幅広いトピックについてワークショップが行われ、その数は11にも上った。内容は気候変動や地雷除去など社会的問題についてや青年参画、スカウト オブ ザ ワールドについてや各国でのスカウト行事についてなどスカウティングに関係するもの等多くのトピックが話し合われた。

How to attract and motivate Scout leaders (スペイン) (有馬)

日本においても課題とされているであろう指導者の不足と、それに伴う指導者育成の必要性に関するフォーラムに参加。リーダーの絶対数の不足、特に隊長を担う人材の不足が各国連盟共通の課題として認識された。ベルギー代表から民間人を指導者として取り込む案が提示されたが、中南米やアジアからは「誓と掟」を宣言していない人間に指導者を任せるということに対する抵抗があるという意見も出され、明確な解決策を見出すには至らなかった。

Youth Involvement (北欧諸国による合同提案) (陰山、竹之下)

今まで議論されてきた青年参画についてもう一度話し合うと共に、それが進まない原因について話し合った。文化的な理由、制度的な理由など様々な意見がでた。特に、ユースの定義について各国から例を出したが、日本の様に25~26歳までというのが多かったが36歳までという香港の様な例も出た。

【各地域での討議】

今回のユースフォーラムとしての提言を採択した後、各地域に今回の経験を持ち帰り、実践する為に地域毎による話し合いが行われた。アジア太平洋地域では2007年10月に行われたアジア太平洋地域スカウトユースフォーラムで選出されたヤングアダルトメンバーグループを中心に話し合いが運営された。

今回のフォーラムで採択された提言書を踏まえ、各地域での具体的な行動を取ることに関しての分科会を行った。各地域選出のユースアドバイザー(以下、YA)が参加している地域は、YAが運営しその他は地域の参加者独自で運営した。最初に実行委員会側が作成した振り返りシートを記入し、その後議論に移った。議事運営はアジア太平洋地域選出のYAである日本の平塚学が行った。地域別分科会で上がった、アジア太平洋地域が直面する課題は以下の通りである。(平塚)

1. YAMGの進捗状況

昨年の10月に東京で開催されたアジア太平洋地域スカウトユースフォーラムで選出された6人のYAMGの活動進捗状況が報告された。現在中間レポートの作成途中の報告であるとの報告があり、参加者からは作成完了次第、結果の公表が提案された。

また、YAMGの定期的な地域のユーススカウトとの対話を促進するために、オンライン上のリソースを開発することが提案された。

2. 青年参画

欧州等に比べて青年参画が遅れている点に関する懸念が表明された。しかし、ナショナルローバースコミッティーなどが有効的に機能している国、特にオーストラリア、ニュージーランド、インドネシアなどもあり、組織の意志決定への青年参画はYAMG等も含めて今後も努力する必要性が確認された。また、青年参画はアダルトを排除するモノではなく、ユースとアダルトとの対話の中で進めていく事の重要性が再確認された。

3. スカウト・オブ・ザ・ワールド

欧州や南米で積極的に導入されているローバー年代を対象にしたプログラムであるが、アジアではオーストラリア、シンガポール、台湾など限られた連盟でしか実施されておらず、より多くの青少年が本プログラムにアクセスできる環境を各国連盟の中で整備していく必要があるとの意見が多数提案された。議長からは、来年のAPRユースフォーラムでワークショップを開くなど地域としての取り組みも活発化させたいとの意見が出された。



■投票行動について

【ユースアドバイザーへの投票】

2011年にブラジルで行われる世界スカウトユースフォーラムまでが任期のユースアドバイザーに、フィンランド・パレスチナ・イギリス・ウガンダ・韓国・アメリカ・モーリシャス・コスタリカ・カナダ・アルゼンチン・ケニア・スワジランド・セルビア・ブラジル・シンガポールからの立候補があった。候補者による演説、投票を経て、以下の6名がユースアドバイザーとして選出された。



左から順に

Millena Pecarski（セルビア） Karin Ahlback（フィンランド） Jaemin Choi（韓国） Fernanda Santos Soares（ブラジル） Nadia Soledad Morrone（アルゼンチン） Kevin Li（カナダ）

日本代表団としては、代表団で協議の上、Karin Ahlback、Cleopatra John Byarugaba（ウガンダ）、Jaemin Choi、Nadia Soledad Morrone、Milena Pecarski、Fernanda Santos Soares の6名に投票した。

【提言(recommendation)への投票】

各項目への日本代表団の対応は、次ページからのRecommendationの日本語訳の下に記した。

■世界スカウト委員会への提言

戦略優先事項1：意志決定への青年参画

提案A：世界スカウト会議への青年代表

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －第9回世界スカウトユースフォーラムの提案3を実行に移した世界スカウト委員会の努力を歓迎し、
- －しかし、いまだに多くの国が世界スカウト会議での各国代表団の中に若者の代表がないこと注記し、

- ・世界スカウト委員会は各国スカウト連盟から世界スカウトユースフォーラムに代表して参加したスカウトから最低1人の代表を世界スカウト会議に参加する事を推奨することを提案する。

→**反対意見出ず。日本も異議なしで賛成。**

提案B：意志決定への青年参画－戦略的アプローチ

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －戦略優先事項1の青年参画を想起し、
- －第9回世界スカウトユースフォーラムの提案文16を再確認し、
- －世界スカウト機構の意志決定への青年参画がいまだ限定的であることを遺憾に思い、
- －専門的な知識は経験を通してしか得られないことに留意し、
- －成人と若者の双方の貢献がスカウトの意志決定において重要であることを注記し、
- －さらに、現在の世界のスカウティングは、成人と若者による若者のための運動とは対称的な、成人による若者の運動として提供されていることを注記し、
- －均等な機会は良い統治の本質的な部分を構成することを考慮し、

- ・世界スカウト委員会が各国スカウト連盟に、若者の候補者を全てのレベルでの責任ある地位の選挙に推薦することを推奨することを提案する。
- ・地域スカウト委員会と世界スカウト委員会が最低でも小委員会とタスクフォースのメンバーの最低1/3を30歳以下にするという目標に向かって努力することを提案する。
- ・世界スカウト委員会が地域と国際的な責任ある地位に選出されることの指導を支援する事を提案する。
- ・世界スカウト委員会がユースアドバイザーと協力して青年参画の戦略と理念を発展させることを提案するこの戦略はユースアドバイザーと世界スカウトユースフォーラムの役割であり、第39回世界スカウト会議で考慮されなければならない。
- ・ユースアドバイザーは意志決定過程における一時的でつかの間の意味だけでしかないことを確認することを提案する。重要なことは、次回の世界スカウトユースフォーラムで、ユースアドバイザーが具体的な解決法を考え提案することである。

→**日本は、上記の上から2点については、若者の経験不足と3分の1は多すぎるという理由により、「判断しかねる」を挙げ、その他の議決については異議なしで賛成。**

提案文C：意志決定への青年参画－優れた実践

第10回世界スカウトユースフォーラムは意志決定への青年参画を推奨するために、世界スカウト委員会（もしくはタスクフォース）意志決定における青年参画の成功事例が存在するいくつかの国から優れた実践を集めることを提案する。これらの優れた実践は、各国スカウト連盟の意志決定と青年参画を改善することを目的に、各国スカウト連盟に配布されなければならない。世界レベルでの優れた実践例の交換は、各国スカウト連盟が若者に責任を委ねる事に対して刺激となるはずである。

→**反対意見出ず。日本も異議なしで賛成。**

提案文D：地域選出のユースアドバイザー

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －地域選出のユースアドバイザーは世界フォーラムで選出されたユースアドバイザーと同様にスカウティングを発展させる重要性を持つことを考慮し、
 - －地域選出のユースアドバイザーの責務を果たすためには、国内外の移動が必要であることを確認し、
- ・ 地域事務局が単独で地域選出のユースアドバイザーの作業を支援するために資金を割り当てることを提案する。
 - ・ 地域選出のユースアドバイザーは他の地域の経験を共有することを目的に交流プログラムの準備を行う重要性を考慮することを提案する。これは、連結を強くし若者の間の地域的な挑戦に良い方法を提供できるだろう。
- 日本は、第1項目については、ユースアドバイザーは有志であり、また不正に資金が使われる恐れもあるため反対。第2項目については、異議なしで賛成。

戦略優先事項2：青年期と若い成人

提案文E：スカウト・オブ・ザ・ワールドアワード

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －世界的な、ローバースカウト部門での比較的少ない加盟員という現在の問題を考慮し、
 - －スカウト・オブ・ザ・ワールドアワードのスカウティングと幅広いコミュニティへの大きな利益を注記し、
 - －より良い世界を創るというスカウティングの使命を支持し、
 - －比較的少ない数のスカウト連盟が現在スカウト・オブ・ザ・ワールドアワードを実施していることを考慮し、
- ・ 各国スカウト連盟がもし未だにスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードを実施していなければ、実施し各国連盟でのスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードを本機能させるために、各国スカウト連盟でスカウト・オブ・ザ・ワールドアワード大使を選出することを提案する。
 - ・ スカウト・オブ・ザ・ワールドアワードにまだ参加していない各国スカウト連盟はスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードを実施することを推奨することを提案する。
 - ・ 現在、各国スカウト連盟のローバースカウト部門でスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードの実施を推奨することが困難だと感じる連盟は、他のスカウト連盟が実施しているスカウト・オブ・ザ・ワールドのプロジェクトに参加することを提案する。
 - ・ 世界スカウト機構がスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードを優先的に出版し調査することを提案する。
 - ・ スカウト・オブ・ザ・ワールドアワードがスカウティングの戦略の戦略的優先事項1への可能な対応であることを考慮することを提案する。
 - ・ 全ての各国スカウト連盟は青年期と若い成人という今日の課題と一致するスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードの実施において、積極的な役割を果たすことを提案する。
 - ・ 各国スカウト連盟と世界スカウト委員会が国際的なテーマによってスカウト・オブ・ザ・ワールドアワードのプロジェクトを推奨することを提案する。
- 各国から上記の様々な案が出され、原案に追加された。この制度のない日本として、その全てに対して異議なしで賛成。

提案文F：世界環境の日

第10回世界スカウトユースフォーラムは

－世界レベルで持続可能な環境のプログラムを完全に実施する必要性を再確認し、

- ・世界スカウト委員会が世界スカウト環境の会議を実施することを提案する。これは、各国スカウト連盟を動員するために、環境担当コミッショナーのネットワークを通して、専門的訓練のワークショップと共有のセッションにより構成されなければならない。これらの会議の目標は各国もしくは国際的なプログラムを前進させ、意見の共有をとして良いプログラムを構築することである。この世界スカウト環境会議は3年に1回開催され、2011年に開催予定の世界スカウト会議で開催される。

→**反対意見出ず。日本も異議なしで賛成。**

提案文G：世界行事の環境的影響

第10回世界スカウトユースフォーラムは

－スカウト行事が環境に影響をもたらすことを認め、

－持って主適切な環境的实践が行われてきたことを願い、

- ・環境の持続性は将来の世界行事の運営で一つの重要な検討材料となることを提案する。
- ・将来の世界行事には環境の持続性の努力にむけて、気候変動ガスの放出を含む環境への影響調査の実施が求められることを提案する。
- ・各国スカウト連盟が持続可能な環境行事に向けて努力するために、各区スカウト連盟で同様の行動を取ることを推奨することを提案する。

→**各国から原案に対する追加意見が出る。その全てに日本は賛成。**

提案文H：地球の時間

第10回世界スカウトユースフォーラムは

－現在の気候変動の問題と第10回世界スカウトユースフォーラムの参加者によって実施された地球の時間スキームの支援を考慮し、

- ・将来の世界、地域、各国スカウト連盟のスカウト行事（例：スカウト会議、スカウトジャンボリー）はプログラムに地球の時間を含むことを考慮することを提案する。

→**言語に関する問題以外、反対意見出ず。日本も異議なしで賛成。**

提案文I：世界スカウトムート

第10回世界スカウトユースフォーラムは

－世界スカウトムートはスカウティングの発展にとって重要な学ぶ手法である事を確認し、

－世界スカウト行事のホストはコミュニティと小国家もしくは発展途上国のリーダーシップの開発にとって重要であることを確認し、

- ・世界スカウト委員会が、世界スカウトムートの実施を支援し、不必要な延期や中止を行わないように提案する。
- ・世界スカウト委員会が、小国家や発展途上国が世界スカウト行事、特に世界スカウトムートをホストする機会を提供すること継続していくことを提案する。
- ・世界スカウト委員会が、これらの行事は、若い成人とローバー達専用の教育手法の形態であることを理解することを提案する。
- ・世界行事への運営支援を提供するために、各国スカウト連盟を推奨・支援し、公式化された過程を提供・伝達することを提案する。

→**日本は上記上から2点と最後1点については賛成。3点目については明記するまでもなく実践されているので、判断しかねるとの判断。**

戦略的優先事項4：手を差しのばす

提案文J：手を差しのばす

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －才能を創り、開けた市民に向けたスカウティングの基本的な価値を再確認し、
- －移民とグローバリゼーションを通して世界の社会は多様化している事実を考慮し、

- ・ 各国スカウト連盟は、積極的に民族・宗教・性・性的指向・身体・学習障害または起こるかもしれない他のどのような違いを基礎とした自分たちの社会という少数のコミュニティ内部の成員を含み、勧誘し、保持しようとすることによって運営されている社会の全ての構成員を御加入し、プログラムを解放する必要性を確認することを提案する。
- ・ 世界スカウト委員会がより多様なグローバルなスカウトのコミュニティの創造に向けてだけでなく、各国スカウト連盟内部での多様性の促進に向けた作業の必要性を確認することを提案する。例えば、ヨーロッパ提案ネットワークで発表された、集め、配布し、促進するプロジェクトの支援や、地球規模での多様性の分野での最も優れた実践を共有するアイデアを延長することを提案する。

→**ヨーロッパ各国の要請で原案にヨーロッパの事例が追加される。日本は異議なしで賛成。**

戦略的優先事項5：スカウティングにおけるボランティア

提案文K：リーダーシップ

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －スカウティングだけでなく社会で行動的な指導者の重要性に留意し、
- －備えることは良い指導者を形成するための本質あることを注記し、

- ・ リーダーシップの研究に着手し、調査結果が世界中のリーダーシップコースのための資源材料として使われることを提案する。調査の実施の期限は2011年開催の世界スカウト会議である。

→**反対意見出ず。日本も異議なしで賛成。**

戦略的優先事項6：21世紀に向けたひとつの組織

提案文L：世界スカウト機構のガバナンス

第10回世界スカウトユースフォーラムは

- －世界スカウト機構の最近の出来事と、世界スカウト機構の民主的な過程を、卑劣な手段で攻撃するいくつかのスカウト連盟の反応に留意し、
- －各国スカウト連盟が危機の際に一方に味方した事実と、それゆえ危機と将来の世界スカウト機構のガバナンスに関連する問題が独立できないことに留意し、
- －ガバナンスレビュータスクフォースの報告と世界スカウト機構の変化の必要性を認め、

- ・ 世界スカウト委員会は世界スカウト機構の執行機関としての地位を再確認する事を提案する。
- ・ 世界スカウト委員会が適切な意味での透明な意志決定と予算の使用の保証を採択することにより、世界スカウト機構の良い統治を保証することを提案する。
- ・ 世界スカウト委員会は各々の各国スカウト連盟の財政的な貢献に関してではなく、民主主義、連帯そして兄弟愛の原則に従って、参加を基に形成されることを提案する。

→**各国から追加意見が出され、原案に追加される。日本は全てに対し、異議なしで賛成。**

フォーラムでのイベント報告

■開会式

開会式、閉会式等のイベントは、大学構内にある屋外劇場で行われた。開会式では参加者を韓国連盟関係者、会場である大学関係者が出迎えた。スカウト運動101歳を祝うパーティーも行われ、カブスカウトも参加して大いに盛り上がった。この場で正式に第10回世界スカウトユースフォーラムの開会が宣言された。



■インターナショナルナイト

それぞれの各国の伝統衣装、食べ物（料理）を持ち寄り、また各国のスカウトがパフォーマンスをして文化交流をする場であった。日本からは伝統衣装であるハッピーを着用し、従来からしている伝統的な踊りはせず、現代的な踊りをした。モーニング娘のラブレボリューションを実際に踊り、日本の独特な踊りが評価され海外のスカウトには好評であった。インターナショナルナイトを通じて多種多様な文化があることを知る良い経験となった。



■プロジェクトフェア

各国での活動を紹介し合うという趣旨であった。各国のブースを回ったが、およそ半数の国が観光案内のようなことをやっていた。日本はウガンダプロジェクトとモンゴルプロジェクトについての説明をした。日本のブースの書道を用いた掛け軸型ポスターは好評で、「漢字で名前を書いてくれ」などのリクエストも受けた。



■コミュニティーサービス（地域への奉仕）

3日目、地域社会への奉仕活動プログラムがあった。これは、地域の方々との交流のチャンスでもあり、世界中からやってきた参加者と韓国の市民との交流は、とても意義深いものであった。健康、環境、開発、平和、教育のテーマにわかれ、学校や病院、農場等で地域の方々共に働いた。

【病院内保育園での交流（健康）】（陰山、平塚）

健康を選択した参加者は、大学に併設している病院で活動した。病院の中でもグループにわかれ、患者さんとお話をするというグループもあったようだ。保育園では、子供たちと絵を描いたり、英語を教えたりした。韓国の教育熱は強いと言われているが、殆どの子供が英語で数を数えることができて驚いた。時間が余ったので日本語を教えたりもした。このように、地元の人々と関わる機会はスカウトの行事ではあまりなかったので、貴重な体験をすることができた。子供たちの笑顔にも癒された。



■閉会式

最終日、開会式と同じ場所で閉会式が行われた。同時に、ビュッフェ形式で夕食もとれた。閉会式では韓国の伝統音楽の演奏や、若者によるダンスなどが演じられた。また参加者からの感謝の品が主催者側に渡される時間もあった。ホスト側挨拶、主催者側挨拶などが続いた後は、音楽がかけられパーティーとなった。



■フリーナイト

期間中、韓国スカウトの案内により大学の周辺を散策する機会があった。グループにサインアップし参加するもので、他の国の参加者とのよい交流の場となると共に、韓国の学生街を体験する貴重な機会となった。

インターイベント概要報告

■インターイベント（世界会議参加者のためのイベント）

概要 インターイベントは世界スカウトユースフォーラムと世界スカウト会議の間に行われた。韓国連盟と順天市の提供プログラムでありユース年代の青年が環境について考えることを主たる目的として提供された。議論はテーマclean Up the worldに沿って行われた。またスカウトだけでなく一般の韓国の大学生も参加していたことからスカウト以外の人々とも議論でき、そして交流でき非常に良い機会となった。

日程 2008年7月11日ー7月13日

参加者 世界ユースフォーラム参加者 164人
韓国一般大学生 292人

開催場所 大韓民国 全羅南道 順天市 順天ユースホテル



※ 順天市について

順天市は朝鮮半島の南側の全羅南道に属する。順天市は松広寺などをはじめとする世界遺産が多く残っており歴史的にも古い。またsuncheonbayなどの自然も多くあり、環境的にも非常に良い町である。

	7月11日	7月12日	7月13日
7:00-9:00		起床・朝食	出発
9:00-13:00		順天観光(2)	
13:00-14:00	到着	昼食	
14:00-18:00	順天市観光(1)	環境フォーラム	
18:00-19:00	夕食	夕食	
19:00-22:00	開会式	Festival 他	

(期間中の日程表)

【1日目】

ユースフォーラム会場からバスで到着後、スンチョン湾と自然博物館を訪れた。スンチョン湾は韓国でも有数の干潟が広がっており、貴重な自然環境を目にすることができた。また自然博物館ではスンチョン湾について詳しく学べることができた。ここで学んだ事を、後の環境フォーラムで活かすという趣旨のようだった。会場に帰着後、開会式が行われた。このイベント自体が韓国連盟主催ではなく、会場の地域の地方連盟が主催して行われていた。

【2日目】

朝食後、民族文化保存村を訪れた。これはフォーラム内容というよりも、殆ど観光に近い物であった。また期間中全て、韓国の一般大学生も参加していたが、彼らは自分たち（スカウト側）が何者なのか、何故ここにいるのかというのは主催者側から知らされておらず、この段階でようやくお互いがわかって来たという状況であった。その後、スーパーに行き、買い物をした。これは、宿泊地が山奥である事から何も買うことができず、スカウト側からのリクエストで実施された。

昼食後、環境フォーラムを行った。数多くのグループにわかれ、環境問題に対して（政府が、地域コミュニティが、一人一人が）何を出来るのかについて話し合った。政府が何を出来るのかという議論では、政府の役割について等話し合ったが、最終的なまとめをする訳でもなく寄せ書きの様な物を各グループで作成終了した。

夕食後、セレモニーとFestivalがあった。また希望者は、また町まで買い物に出かけることができた。

【3日目】

起床後、済州島に向けて出発した。途中港で船に乗換え、4時間ほどの船旅であった。済州島に着きユースフォーラム参加者と別れたが、10日間近く生活を共にしたので心無しか寂しい気持ちになった。

【評価、反省】

ユースフォーラム後にまたフォーラムと言う事で、参加者からは若干不満があがっていた。また主催者側からの情報も少なく、不満がたまって行った。時間配分や実施内容もよくわからず、正直満足の得られる結果を残す事ができなかった。全体の雰囲気としても、インターイベントと言う事で中だるみが生じていた事も否めない。しかし、そうだからといって議論や行事そのものへの参加者の態度が適当なものになっていたのは、世界ユースフォーラム参加者全体としても反省すべき点であると考えられる。

フォーラム内での23WSJ招致活動

■代表団としてのスタンス

代表団としては、ユースフォーラムは議論を行う場であり招致活動は大々的には行わないという方針で臨んだ。プロジェクトフェアやその他の場面で、招致活動を行える機会があったが組織的に動くという事はしなかった。ただし、世界会議で投票権をもつ参加者も多くいた事から、個人的な会話の場面で積極的にアピールする事を心がけた。また、支持を得られる様な行動を心がけた。



世界スカウトフォーラム運営への評価

■フォーラムへの評価

今回の第10回世界スカウトユースフォーラムは前回の第9回世界ユースフォーラムにおいて選出されたユースアドバイザー達によって企画・運営された初めてのユースフォーラムであった。その点を踏まえると、細かい部分で情報伝達の不徹底などあったものの、先例のない中で「ユースによる世界規模フォーラムの企画運営」を無事に開催し終了させたという事実はユース活動における大きな一歩として評価されるべきだろうと思う。

しかしながら、同時に今回の世界スカウトユースフォーラムは時間配分が適切に行われていなかったことも事実である。具体的に言うと議論の時間が非常に少なかったことが特に大きな問題であった。限られた時間でディスカッションを行わなければならないため、せっかく世界各地から優秀なスカウト達が集まっているにも関わらず本質的な議論を行うことが難しく、またそもそも人数と時間とのバランスが取れていないため、ディスカッションというよりは「意見表明会」に過ぎないと感じられる場面も多かったのは非常に残念である。また、決議文の採択においても議論のための時間が非常に少なく、最終的には予定時刻よりも2時間以上遅れての決議文採択となった。

以上を踏まえると、次回の世界スカウトユースフォーラムにおいては各ディスカッション時間に関する問題を改善することが必要になるだろう。開催期間は限られているため議題の数を減らして各ワークショップの時間を長く取る、ワークショップの数を増やして少人数でのディスカッションを行う、など改善策は幾つか考えられるが、「ユース間の意見共有・議論」というフォーラムの根本に関わる問題だけに、次回第11回スカウトユースフォーラムにおいて、この問題が改善されていることを切に願うところである。

■ホスト国連盟運営への評価

ホスト国である韓国の対応は素晴らしかった。フォーラムの最後に各国間で何が一番素晴らしかったのかを話し合う機会があったのだが、そこでも彼らの対応は" wonderful"、" amazing"といった感じで、韓国スカウト連盟のホスピタリティが高く評価されていた。

まず、空港に着いてからユースフォーラム用に空港の一つのカウンターを貸しきって対応していることに驚いた。そこでは一生懸命にスカウトが受付や荷物の管理、会場までのバスの案内を行っていた。会場に着いてからも、大変大きな会場であるにも関わらず、困ったことがあればいつでも I S T に声がかけられるよう、いたるところにインフォメーションデスクがあり、そして彼らの対応はいつも親切で的確であった。裏では I S T は睡眠時間が1時間取れば良いほうだという過酷な話まで聞いたが、彼らは辛い顔一つせず、常に明るく振舞い、困っているスカウトをみかけたらすぐに対応していた。特に素晴らしいと思ったのは、中には英語を上手く操れない I S T もいたのだが、そんな彼らも彼らなりにジェスチャーや紙とペンを使って明るく一生懸命に、そして物怖じすることなく積極的に各国のスカウトに声をかけていた姿だ。たまに大勢の前でスピーチをする際に、英語が理解してもらえずに落ち込んでいたりもしたが、それに屈することなく、めげずに明るく振舞っていた。本当に素晴らしかったと思う。

次に、フォーラム中の生活環境についてであるが、蚊が多かったこと以外は、これも申し分なかった。開催地の大学の寮を2人のスカウトでシェアして使用していたのだが、清潔感があり、お風呂もトイレも共有であったが、何も不自由することはなかった。また、食事についても肉、魚、野菜をしっかりと表記するなど、各国の宗教にも対応していたし、とても美味しく、栄養バランスも取れていた。中には、韓国料理が初めてでキムチなどは口に合わないと言うスカウトもいたが、彼らには彼ら用にきちんとパンやパスタなども用意されていて特に問題はなさそうだった。会議会場についても、住環境と同様申し分なく、とても綺麗で大きなホールで行われており、また冷房が効きすぎて寒いということもなく快適であった。

また、フォーラム開催中のイベントなども、ユースが楽しめるように、ユースの視点でプログラムが構成されていて、皆しっかりと生き抜きができていて良かった。例えば、イベントのゲストとしてお決まりの伝統芸能だけでなく、地元の若者達のブレイクダンスグループを呼んだり、イベントをダンスパーティし立てにしたり、夜のプログラムを意図的に作って街を自由にグループで散策したりなど、ユースが思う存分楽しめる内容となっていた。

閉会式の際は誰もが、韓国の I S T に感謝の言葉を言って別れ、また韓国に行きたいと言っていた。 I S T 側では反省点が挙がっていたのかもしれないが、韓国スカウト達のお陰でこのフォーラムが成功に終わったと言っても過言ではないだろう。

代表 陰山 雄平 (東京連盟練馬15団)



今回のフォーラムは、昨年度に参加したアフリカ地域スカウトユースフォーラム、アジア太平洋スカウトユースフォーラムに続き、私にとって3回目の外国スカウトとのユースフォーラムとなった。世界フォーラムは世界レベルでの青年参画の実現であるので、各地域でのユースフォーラムに参加した私は各国のスカウトがどのような経験をしているのか非常に興味深かった。

各国の代表団は、各国連盟を代表して来ているのであって、代表の意見はその連盟の意見と言ってもよいはずである。しかし日本代表団は、日本連盟において選考を経て参加しているものの、意見を代表していた訳ではない。これは、各国の様にユースによる意思決定組織が無い、また連盟の意思決定にユースが参画できていない現実があるから起こる問題である。分科会等で各国の青年参画の現状を報告する機会が何度かあったが、正直よい例として日本を出す事は出来なかった。昔、ローバース会議という組織が日本連盟にあったという話は聞いているがそれがどうして無くなったのか、大きな疑問である。

では、ユースによる意思決定の組織や制度があればよいのだろうか？また、日本にそのような制度が出来た場合、持続的に組織を運営する事が可能であろうか？今回ユースフォーラムに参加して、ヨーロッパ諸国の青年参画が進んだ国のスカウトと話して思った印象は、エネルギーがあるという事である。ただ青年参画を望むだけでなく、自らそれを勝ち取って(?)行こうとする姿勢が感じられた。そのような意識の低い中で、果たして日本で青年参画というものが実現するのだろうか。実現しなければならぬのであるが、何故そのように思うスカウトが少ないのか、継続する事ができなかったのか、よく考えなければならない。ユースと言われる年代は今の制度の中ではスカウト活動の集大成であるから、その集大成がうまく作れていないという事は、それ以前のCS、BS、VSのプログラムにも問題があるのだろう。

ユースフォーラムでは分科会が多く設けられ、数多くのトピックについて話し合いが行われた。分科会が行われる場合は各グループ20名ほどとなり、ディスカッションを行うにはちょうど良い人数であった。私はさほど英語がうまくないので議論について行くだけで正直いっぱいいっぱいであったが、日本の意見を話す事が仕事であると思っていたので、必ず発言する様にしていた。この様な中で、殆どの分科会で時間が足りず、情報をただ出し合うブレインストーミングの様な形で終わってしまっていたのが非常にもったいない。世界中から、各国のユースの代表が集まっているにもかかわらず、身のある話を出来ない事は大きな問題であろう。これは、アジア太平洋地域ユースフォーラムでも同じ様に感じた。多くの内容を、短い時間で扱う事はこのような機会には少し難しいのかもしれない。そして、各分科会の成果を共有する方法も、分科会の最後に何をまとめるのでもなく、ただ発表者が話した事を報告するだけなので、これでは「話し合いっぱなし」と言うに等しい。次回に向けて改善して欲しい点である。

今思えば、やり残した事、言い残した事が多々あるように感じる。しかしあの様な場で議論を曲がりなりに出来た事は、とても幸せな事であった。そして多くの友人と再会し、また新たな友人も出来た事は、私の人生の中で大きな財産の一つとなった。今回の派遣にあたり、お世話になった全ての方々に感謝します。

(次回の世界ユースフォーラム参加者へ)

2011年までに、何がどうなっているのかわからないけど、少なくとも日本の代表として参加する訳だから自信を持って議論して来て下さい。そして、友達をたくさん作って、歌って、踊りたくなくても踊って、ユースフォーラムを楽しんで来て下さい。そしてその経験を、日本にフィードバックして下さい。必ず。

代表 竹之下 友里 (東京連盟新宿2団)



【評価】

今回のフォーラムでの収穫は、「日本のスカウティングを世界レベルで考えられたこと」、「一生付き合っていける多国籍に渡る友人を得たこと」この2つに尽きる。渡航前に日本人代表団で勉強会を開いた時は、本当にユースがこのような難しい問題について話し合い、解決策を見出すことができるのだろうかと思っていた。しかし、実際に参加してみると、そこではユースならではの視点や切り口での議論が展開されており、非常に興味深かった。そして、そういうものこそが、ユーススカウトの最大の武器であるのだと学んだ。普段のスカウト活動の最前線で活躍している彼らだからこそ見えてくる自国のスカウティングに対する問題点、各国それぞれのスカウティングの有り方に対して悩みをディスカッションの場でぶつけ、皆でそれに対して取り組む分科会などがその顕著な例である。

その中でも特に印象深かったのが次の例である。MDGsの「世界の子供に教育を」の項目についての話し合いの際、アメリカやヨーロッパ各国、そして私の日本国も含め、先進国は「子供のために教育基金を作ることが最善策である」と議論を進めていたのだが、突然、ブラジル（ブラジルはグループBの発展途上国である。）のスカウトが深刻そうな顔で、「でも私には目の前で今晚のご飯のために働いている子供にその仕事をやめるといえることはできない。」と切り出した。そこで私達のグループは初めて現実にぶち当たったという感じでショックを受け、もっと小さな、基本的なレベルでの話し合いをしようと方向転換をし、結局のところ、「自分の隊での活動を自分達がリーダーとなって充実させ、教育の大切さをそのコミュにティーに理解してもらおう」という結論に至った。

私は、一人の問題をその人だけの問題と捉えずに、皆で解決していく姿勢、これこそがスカウティングのあり方なのではないかと感動した。そして、そのような議論はちょっとした休憩時間などでも見られ、私はそれを通して普段の国際イベントや異文化交流だけでは得られない深い絆を彼らと築くことができたと思っている。

【反省】

最大の反省点は予習が甘かったことだ。今回はメンバー確定がかなり遅くなってしまったので仕方ないところはあるが、必ずどのような環境でどのような議論ができて、自由にプレゼンをする時間がどのくらいある、など細かなことまで先輩達に聞いてから渡航すべきであった。

例えば、毎朝会議の前に各国が自由にプレゼンをする時間が設けられているのだが、そのことを知らなかったので全く準備をしておらず、日本で行われている素晴らしいプロジェクトを代表としてフォーラムの場で発表することができなかったことはとても悔しい。

【次の代表団のみなさんへ】

十分に予習して臨んで下さい。そして日本の代表として胸を張って行ってきて下さい。そして、たまに予習外のことを聞かれても、自分のこれまでの経験に自信を持って、堂々と発言してみてください。ユースフォーラムはそういう個人レベルの問題を決してないがしろにしないあたたかい場です。個人レベルの小さな問題が、実は世界レベルでの問題の根源であった、なんてことはよくある話です。そして世界のユーススカウトはそういうことを見逃したりしないし、自分も見逃してはいけません。気になることはその場で質問し、何でも吸収する姿勢で！

あとは、意外と椅子に座って話し合いしてるだけでも体力使います。無理をせず、たまにはお誘いを断る勇気を持って、積極的に休憩時間を取って下さい。

オブザーバー 平塚 学 (日本連盟教育本部委員)



今回は、アジア太平洋地域以外の新しいユースアドバイザーと議論をしたり、お互いの地域の経験を共有したりと個人的に収穫の多かったユースフォーラムであった。しかし、これは毎回の現象ではあるが、各地域でスカウトが固まる現象を打ち崩せなかった。欧州のグループに入っても、「お前はアジアのユースアドバイザーだろう？」といわれ、非常に地域間で温度差が見られた。また、アジアからの参加者は議論に参加しないスカウトも多く、今一度フォーラム全体の目的を参加者全員で共有する必要があるだろう。

次に、フォーラム全体の運営の面からレビューをしてみる。今回のフォーラムは前回のチュニジアの世界フォーラムで初めて選出されたユースアドバイザーによって運営される初めてのフォーラムであった。各々のユースアドバイザーは過去3年間に、準備だけではなく世界委員会の各種タスクを果たし、多忙な中で準備できていたと思う。しかし、フォーラムの運営に関しては、議論の時間が極端に短かったように思う。結果的に表面的な議論に終始してしまい、経験や知識の共有は出来たと思うが、そこから一歩前進したものを議論することが出来なかった点は残念である。基礎的な知識はフォーラム前に各自で学んでおき、フォーラムでのインプットは最小限にし、その分議論につなげるべきである。フォーラム前にScout Postを有効的に活用することによりこの点はカバーできるモノと考えられる。

青年参画は世界スカウト機構が2001年にテッサロニキで開催した世界会議で、スカウティングの戦略(Strategy for Scouting)の最優先事項として各国連盟や地域が積極的に取り組んでいる。日本連盟でも長年この優先事項の達成に向けて努力してきたが、まだまだ発展途上であり改善の余地は残っている。しかし、日本では一部のユースが、青年参画の一側面のみを青年参画の全体像として扱っている点に危惧している。彼らの意見の多くは、スカウティングは若者が中心だ、ユースが運営した方がニーズにかなっている、ユースを日本連盟の委員会に参画させる等の意見が大半である。しかし、私はスカウト運動においてはユースとアダルトの対話が青年参画の本質であると考えている。ユースだけが運動のオペレーションに参画すれば良いのではなく、またアダルトを排除するものでもない。青年参画は一昼夜では変わらないと言うことを、我々若者は学ばなければならない。

日本連盟が2015年に開催する第23回世界ジャンボリーの招致活動を通して、多くの日本の若者が国際舞台で活躍するようになり、日本連盟に対する世界からの視線は大きく変化している。今後も、今まで以上に、長期的な視点で人材育成を行い、ユースとアダルトとの対話を通してスカウト運動の発展、社会の発展に建設的な役割を果たす若者を育てていくことが今後の私のスカウト運動における使命と考えている。世界フォーラム派遣に際し、多大なご支援を頂きましたスカウト運動の関係者に感謝します。

弥栄



オブザーバー 有馬 典孝 (兵庫連盟龍野1団)



今回の第十回世界スカウトユースフォーラムに参加しての感想であるが、最も印象に残った点として、参加者の高い水準に驚かされたということが挙げられるだろう。特に欧州からの参加者は単なる一ローバースカウトなどではなく、母国スカウト連盟において責任ある地位を任されているスカウトが多く、今回のフォーラムにおいても「ユースが積極的に発言してスカウティングを動かしていくのだ」という高い意識が感じられた。そういった経験・知識が豊富なスカウトとの交流やディスカッションは問題と解決案といった知識の吸収・共有という点で非常に有意義であったと思う。

しかし、特にアジア圏において顕著な問題であるが、やはり各種フォーラム・ディスカッションにおいて積極的に発言を行わないスカウトも多く、また大多数の参加者は積極的かつレベルの高い一部の発言者に圧倒されていたように感じる。このため議論が非常に限定された人間の間のみで行われていたという点は残念なことだった。20名近くの参加者がいるディスカッションにおいても議論自体は主要な発言者5、6人程度が主導していることが殆どで、「世界」ユースフォーラムというほど多くの国からの視点が提供されていたかと問われれば、それは疑問であり、運営評価のセクションで触れられた「時間の不足」という問題とあわせて今後解決されなければならない問題となるだろう。

今回の世界スカウトユースフォーラムにおいては主にガバナンスに関する議論に参加してきたが、その中で強く感じたのは「世界スカウトユースフォーラムとは言うものの、参加者はどこまでグローバルな立場を持つべきなのか」という問題である。ガバナンス問題においては専ら「WOSM運営に介入するアメリカ憎し」という意見が大勢を占めていたように思われるが、そのWOSM危機において見られるように、スカウト活動とはWOSMに象徴されるようなグローバルな存在であると同時に、各国NSOというより地域的な組織の集合体でもある。とすれば、世界スカウトユースフォーラムにおいても、各参加者は世界的な視点を持ちつつも自らがNSOを代表しているという意識を失ってはならないことになるのではないかと感じた。私が「日本代表団」の一員としてフォーラムに参加したように。

もちろん、環境や平和、貧困といったグローバルな問題にスカウティングが立ち向かっていくということは重要なことだし、世界スカウトユースフォーラムという場に「各国の利害関係」という政治的な要素を持ち込むのは不適切なことかもしれない。しかし、WOSM危機という大事件を経験した今こそ、ユースがアダルトと共にスカウトの世界的な連帯とはなにか、そしてグローバルな視野とナショナルな利害関係をどのようにして一致させていくかということを考えていかねばならないのではないかと感じた次第である。



オブザーバー 木下 博貴 (京都連盟京都25団)



今回のユースフォーラムはAPRユースフォーラムのように交流するだけでなく、事前に準備し、そして分科会では発言することを目標にして参加したフォーラムでした。実際に三日目からディスカッションが行われ、僕も1つの重要な分科会を任せられ代表として責任を持って参加しました。分科会では実際に準備を万全にしているスカウトから、フォーラムに来て初めてトピックを知ったというスカウトまでさまざまでした。僕のグループでは大体20人から30人のスカウトがいたが実際にディスカッションが始まるとやはりヨーロッパ地域のスカウト数人が主導でディスカッションが進むことが多く見解となりやはりヨーロッパ以外の地域とヨーロッパではレベルの差がまだまだあると考えられ、今後アジアのスカウトは明確な意見を持ち参加することが望ましいと思います。

私自身ですが正直英語で理解するのが精一杯の状況がほとんどでした、何回かは発言した点はAPRユースフォーラムよりも成長したと評価できるが、もっと自分の気持ちを表現できたらと思います。また、今回のフォーラムではヨーロッパ主導のディスカッションが多く見られたので今後はそれに対応できる知識と英語力をつけていきたいです。

また分科会以外では交流する場面が多くありました。日頃なかなかしゃべることのできない国の人と話すことができたり、文化交流をしたりし今後一緒に活動していく仲間が増えたことは非常に良かったです。しかし交流では厳しい現実を話してくれた国もあったり、環境問題があたりと。今後僕たちはどのように活動していかなければならないのかを考えさせられる瞬間だった。ユースフォーラムに参加する前、交流はただ楽しいものだけだと甘い認識をしていました。交流は楽しむだけでなく、厳しい現状をすることも交流のうちだと今回のユースフォーラムで勉強しました。今後はユースフォーラムでのことをいかし、自分はscoutingにおいて何をしなければならぬかを考え今後のscoutingにいかしていきたいです。



日本連盟への提言

私たち、第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団一同は、本フォーラムにおける議論及び諸外国のスカウトとの意見交換を踏まえ、ボーイスカウト日本連盟に対し、以下の提案を行う。これらの提案は日本連盟において深く議論され、実施される事を望む。

2008年10月26日

提言1 スカウト オブ ザ ワールド アワード

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、
—世界各国でスカウトオブザワールドが実施されよい効果を上げている事に注目する。
よって、ボーイスカウト日本連盟は

- ・スカウトオブザワールドアワードを採用する。
- ・採用している各連盟の事例を研究し、日本の実情に合うプログラムを提供するよう努力する。
- ・取得を目指すスカウトに対し、適切な支援を出来る体制を整える。

提言2 環境教育

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、
—スカウト運動において環境教育が重要であることを認識し、推進する事が重要であると考え。
よって、ボーイスカウト日本連盟は

- ・第38回世界スカウト会議において発表された世界スカウト環境プログラムを導入し、教育本部プログラム委員会の下に環境教育タスクチームを設置し、日本の実情にあった展開方法を研究する。

提言3 スカウティングのイメージとパートナーシップ

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、
—2015年に日本で開催される第23回世界スカウトジャンボリーに向け国際的な人材を育成しなければならない事を認識すると共に、
—スカウト人口減少が顕著であり、上記行事に向けての人材確保が困難であることを踏まえ、
ボーイスカウト日本連盟は

- ・テレビ、新聞、ラジオ等メディアとのパートナーシップを推進し、社会でのスカウト運動の認知度の向上及びイメージアップに努める。
- ・インターネット上での情報提供の重要性を認識し、日本連盟ホームページをより洗練されたデザインに改善すると共に、情報提供機能を強化する。
- ・スカウトのニーズに基づいた、より魅力的なプログラムを提供するために指導者の養成、及び指導者間の情報共有の機会を提供する。

提言4 意思決定過程への青年参画

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、

—世界ユーススカウトフォーラムでの議論を踏まえ、スカウト運動における青年の意思決定への参画の重要性を強く認識し、

—日本連盟における意思決定において青年参画が進展していない現状を憂慮すると共に

—全国レベルでのユース年代の意見を集約し、表明する機能がないことを認識する。

よって、ボーイスカウト日本連盟は

- ・ 日本連盟全国大会においてユースの意見を反映させるべく、大会開催直前に、ユース年代のスカウトを対象とした全国ユースフォーラムを毎年開催する。
- ・ 上記ユースフォーラムにて選出された代表数名がユースアドバイザーとして、日本連盟における意思決定プロセスに参画する事を認める。
- ・ 全国レベルだけでなく、県連盟、地区レベルにおいて青年参画を進めるよう、各県連盟に強く働きかける。

提言5 国際協力活動

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、

—よりよき世界を創る（Creating a better world）事を世界のスカウト兄弟と共に実現すると共に、世界で活躍する人材を育成するための海外プロジェクトの重要性を認識する。

よって、ボーイスカウト日本連盟は

- ・ 海外派遣事業の重要性を強く認識し、これを推進する。
- ・ 既存の事業に関してはその継続と発展に努め、可能な範囲で新規事業を実施する。
- ・ 各海外派遣事業参加者間、及び海外派遣事業参加希望者の情報共有を推進するため、活動報告会を日本連盟が主催すると共に、報告書等へのアクセスを容易にする。
- ・ 外部団体との連携を推進し、事業内容及び資金面での協力を得られるよう努力する。

提言6 ユースによる自立的活動

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、

—スカウティングの本質はスカウト自身による自立的な活動である事を再確認し、

—ユース年代の自立的な活動が、日本のスカウト運動の長期的な発展に必要な不可欠である事を確信する。

よって、ボーイスカウト日本連盟は

- ・ スカウト自身の目標を達成する為に、志を同じくした複数の加盟員によって構成される活動グループを公認する。
- ・ その活動を円滑に実施できるよう、教育規定を改訂する。
- ・ また、改訂された規定には、公認する活動グループの要件を明確に提示する。

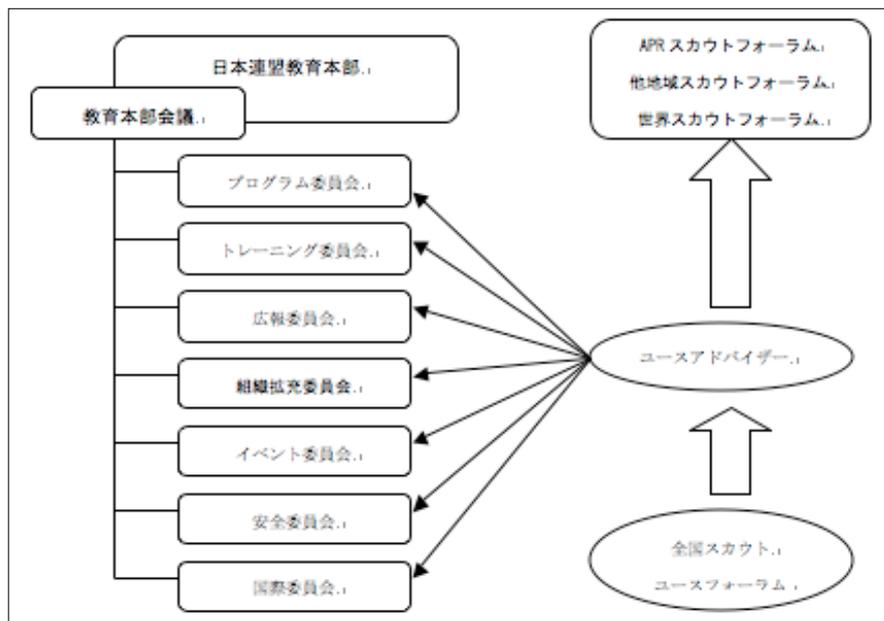
提言7 ガバナンス

第10回世界スカウトユースフォーラム日本代表団は、

—世界スカウトユースフォーラムにおけるガバナンスの議論を踏まえ、世界スカウト機構におけるガバナンスの5要件（組織の透明性、民主性、説明責任、運営の一貫性、運営の効果性）が、各国連盟レベルにおいても重要であると考える。

—特に、意思決定における民主性、透明性の確保及び加盟員に対する説明責任は重要であると考える。よって、ボーイスカウト日本連盟は

- ・ 日本連盟における意思決定機関の人選の過程及び基準を明確にし、これを加盟員に公表する。
- ・ また、選出された委員等は全国大会等の公の場で、承認されるようにする。
- ・ 日本連盟における会議等の議事録を、加盟員に公表する。
- ・ 民主的手続きにより、各県連盟の意見を日本連盟の意思決定へ取り込む。



(全国フォーラム実施時の日本連盟への参画方法の図)

東京連盟	陰山 雄平
東京連盟	竹之下 友里
熊本県連盟	平塚 学
兵庫県連盟	有馬 典孝
京都連盟	木下 博貴



Report of the 10th World Scout Youth Forum, Japan Delegation, Scout Association of Japan